

3-4 ヨーロッパ史

研究・教育活動の概要と特色

ヨーロッパ史は、法文学部発足当初からの80年余にわたる長い歴史を有し、草創期以来の「厳密な実証研究」の伝統を継承しつつ、多様な問題関心と研究手法に基づいて研究を展開しているところに特色がある。欧米の研究文献の綿密な読解と原典史料の緻密な分析に基づく高度の実証的理論的研究は言うに及ばず、教員が各々国制史、社会経済史、地域社会史、社会史・心性史等、多様な研究方法に基づいて、構想力豊かな質の高い研究成果をあげている。

教育活動については、大学院博士課程を有する研究室として、また大学院重点化大学として、研究者・教育者の養成を第一義としてきた伝統があるが、近年では社会の多方面において活躍できる人材の育成も求められている。従って研究者・教育者養成と同時に、高度な識見と職能を有する専門職業人育成へと連携できるような基礎的知識、そして欧米の歴史と現代世界についての広い視野また深い洞察力を鍛錬していくことを教育方針として、学部学生及び大学院学生の指導・教育にあたっている。研究室の教員、大学院生全員参加の大学院研究例会は、修士論文及び課程博士論文作成予定者の研究報告の場であり、教員・院生の間で、毎回活発な議論が展開されている。着実な不断の努力の積み重ねが本研究室の研究・教育活動の特色である。

I 組織

1 教員数 (2009年9月末現在)

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：佐藤勝則、小野善彦

准教授：有光秀行

助教：原賢治

2 在学生数 (2009年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
36	0	10	10	1

3 修了生・卒業生数（2005～2009 年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	14	5	2
06	14	3	1
07	16	3	3
08	15	4	0
09	0	0	0
計	59	15	6

* 2009 年度は、9 月末までの数字

II 過去 5 年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009 年度）

1 博士学位授与

1- 1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	1	1
06	1	0	1
07	1	1	2
08	0	0	0
09	1	0	1
計	3	2	5

* 2009 年度は、9 月末までの数字

1- 2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

山崎彰、2005 年度、『ドイツ近世的権力と土地貴族』

審査委員：教授・佐藤勝則（主査）、教授・小野善彦、教授・原研二

星隆介、2006 年度、『ワイマル期ドイツにおける福祉国家的給付政策の展開と自治体財政問題』

審査委員：教授・佐藤勝則(主査)、教授・松本宣郎、教授・小野善彦、教授・原研二、助教授・有光秀行、助教授・福澤直樹（名古屋大学）

新保良明、2007 年度、『古代ローマ帝政前期における帝国官僚と都市に関する研究』

審査委員：教授・松本宣郎(主査)、教授・佐藤勝則、教授・尾崎彰宏
原賢治、2007年度、『ヘレニズム期ロドスにおける社会変容』

審査委員：教授・松本宣郎(主査)、教授・佐藤勝則、教授・小野善彦、准教授・有光秀行、准教授・芳賀京子

津田拓郎、2009年度、『カロリング期フランク王国の統治構造の研究—カピトゥラリア，王国教会，教会会議—』

審査委員：教授・小野善彦(主査)、教授・佐藤勝則、准教授・有光秀行、准教授・木村敏明

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	4	0	0	0	4
06	4	0	0	0	4
07	1	0	0	2	3
08	4	0	0	0	4
09	1	0	0	0	1
計	14	0	0	2	16

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	6	1	0	7
06	0	6	0	0	6
07	0	5	0	0	5
08	0	4	4	0	8
09	1	0	1	0	2
計	1	21	6	0	28

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

星隆介「ワイマル期ドイツの自治体営業税問題と財政改革論 —「地方自治の危機」と課税根拠の動揺—」『歴史』第104輯，pp.1-31，2005.

津田拓郎「カロリング期教会改革のバイエルンにおける展開 —ザルツブルク大

- 司教アルノ（785[798]-821）の時代を中心に」、『西洋史研究』新輯第 34 号, pp.77-108, 2005.
- 渡邊竜太「1920 年代末チェコスロヴァキアにおけるドイツ人社会民主党の市町村付加税論争 —地方自治行政と国民的自治—」、『西洋史研究』新輯第 34 号, pp.109-132, 2005.
- 星隆介「ワイマル期における「ドイツ都市会議」・「ドイチャー・フェアアイン」の性格 —財政・社会福祉政策論における都市利害代表団体の位置—」、『文化』第 69 巻第 3・4 号, pp.78-95, 2006.
- 原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける社会変容」、『西洋史研究』新輯第 35 号, pp.28-52, 2006.
- 府中望「17 世紀末フランスの総合救貧院制度 —マルセイユ愛徳総合救貧院の事例を通して—」、『西洋史研究』新輯第 35 号, pp.86-113, 2006.
- 細谷要「第一次世界大戦前・後におけるドイツ中央党の政策転換 —M. エルツベルガーの国防・財政政策を中心に—」、『西洋史研究』新輯第 36 号, pp.63-91, 2007.
- 赤井悠三「1960 年代アメリカにおけるポップカルチャーと社会批判—初期のポップ・ディランを手がかりに—」、『歴史』第 109 輯, pp.135-150, 2007.
- 柘淵文夫「第一次大戦前後の F. ナウマンの中欧思想 —歴史意識と民族問題—」、『文化』, 2007-2008.
- 原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける海軍と社会—漕手の分析を中心に—」, 松本宣郎編『ヨーロッパ古代史論集』, 東北大学ヨーロッパ史研究室, pp.34-46, 2008.
- 大谷哲「初期キリスト教殉教神学の成立と起源」, 松本宣郎編『ヨーロッパ古代史論集』, 東北大学ヨーロッパ史研究室, pp.62-75, 2008.
- 大谷哲「初期キリスト教における殉教神学の形成」, 『歴史』第 111 輯, 左 1-24, 2008.
- 大谷哲「帝政初期ローマ公法廷における聴衆の影響力—” サクラ” の検証を中心として—」, 『史鏡』第 58 号, pp.85-145, 2009.
- 永本哲也「宗教改革期ミュンスターの社会運動（1525-35 年）と都市共同体 —運動の社会構造分析を中心に—」, 『西洋史研究』新輯第 37 号, pp.86-117, 2008.
- 府中望「十八世紀フランス地方救貧行政の構造—マルセイユの救貧行政を中心に—」 『歴史』第 111 輯, 左 25-55, 2008.
- 武田佑太「第一次大戦前カリブ海植民地における製糖産業の再編とフランス系銀行—クアドループを中心に—」 『歴史』第 112 輯, 左 1-26, 2009.

(2) 口頭発表

原賢治「ヘレニズム期ロドスにおける施与と顕彰」，日本西洋史学会，神戸大学，

2005年5月15日

佐々木孝浩「16世紀帝国都市ニュルンベルクのポリツァイにおける中間団体」，

日本西洋史学会，神戸大学，2005年5月15日

渡邊竜太「チェコスロヴァキアにおけるドイツ人社会民主党と地方自治行政 —

1927/28年地方行財政「改革」反対論を手がかりとして—」，西洋史研究会，

青山学院大学，2005年11月19日

杵渕文夫「第一次世界大戦とフリードリヒ・ナウマンの中欧構想 —「経済国家」

の分析を中心に—」，社会経済史学会全国大会，創価大学，2007年5月26

日.

津田拓郎「ルートヴィヒドイツ人王時代の「集会」の果たす役割について —教

育改革研究の手がかりとして—」，日本西洋史学会，新潟大学，2007年6月17

日.

永本哲也「1525-1535年ミュンスターにおける社会運動支持者の社会階層」，日本

西洋史学会，新潟大学，2007年6月17日.

府中望「18世紀フランスにおける王権と総合救貧院 —マルセイユ愛徳総合救貧

院の事例を通して—」，日本西洋史学会，新潟大学，2007年6月17日.

細谷要「第一次世界大戦前・後におけるドイツ中央党の国防政策 —M. エルツベ

ルガーの見解を中心に—」，日本西洋史学会，新潟大学，2007年6月17日.

大谷哲「帝政初期ローマ公法廷における聴衆の影響力」，歴史人類学会第29回大

会，筑波大学，2008年11月8日.

杵渕文夫「第一次大戦期 F.ナウマンの中欧構想—「経済国家」の社会政策的側面

の分析を中心に」ドイツ資本主義研究会 ADWG，専修大学，2008年12月14

日.

武田佑太「19世紀末大不況下におけるラテン通貨同盟と金銀複本位制」，政治経

済学・経済史学会 2008年度秋季学術大会，大東文化大学，2008年10月25

日.

武田佑太「フランス対外商品・金銀取引とラテン通貨同盟(1865-74年)」，第13回

社会経済史学会東北部会，東北大学，2008年12月20日.

永本哲也「1525-35年におけるミュンスターの社会運動と共同体への帰属意識」，

東北学院大学オープン・リサーチ・センター2008年度合同研究会，東北学院

大学，2008年8月30日。

永本哲也「1525-34年ミュンスター宗教改革における市参事会の役割意識と態度決定」，歴史学研究会ヨーロッパ中近世史合同部会，早稲田大学，2009年1月11日。

日浦涉「19世紀後半における英愛財政関係と自治問題」，2008年度西洋史研究会大会，東北大学，2008年11月22日。

府中望「フランス近世都市の権力秩序—マルセイユ市政を通じて—」，2008年度西洋史研究会大会，東北大学，2008年11月22日。

武蔵貴弘「12、13世紀イングランド北部の貴族社会—イングランドとスコットランド、両王権間における de Vesey 家の事例から—」，東北学院大学オープン・リサーチ・センター2009年度合同研究会，東北学院大学，2009年8月28日。

Satoshi OHTANI, "For Whom Was the Concept of Martyrdom Created?", Asia-Pacific Early Christian Studies Society 5th Annual Conference, Tohoku Gakuin University, 2009年9月10日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2007年度 DC採用 1人

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

年度	学部	大学院	計
05	0	1	1
06	1	0	1
07	1	0	1
08	0	0	0
09	0	0	0
計	2	1	3

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0	0	0
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	0	1	1

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	2	0	2
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
計	3	0	3

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

佐藤純、八戸工業高等専門学校、2005年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 4名

ジャーナリスト 2名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

2008年4月1日—25日 デイヴィッド・ロラソン (David Rollason) 連合王国ダラム大学教授 (日本学術振興会招聘研究者 (短期)、受入研究者: 有光秀行)

10 刊行物

『西洋史研究』（年刊）新輯第33号（2004）～新輯第37号（2008）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

学会開催

2005年11月19日,20日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2006年11月18日,19日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2007年11月24日,25日 西洋史研究会大会開催 国内学会

2008年11月22日,23日 西洋史研究会大会開催 国内学会

学会事務局

西洋史研究会（国内学会）事務局

講演会開催

2005年9月24日 西洋史研究会公開講演会開催「初期キリスト教徒が
生きたローマ帝国」松本宣郎

2006年9月16日 西洋史研究会公開講演会開催「世界から郷土へ 郷
土から世界へ」高島邦俊、菅井茂

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

大学院生研究例会

博士論文予備審査会

2005年12月6日

2008年1月30日

2009年5月30日

修士論文構想発表会

2005年7月16日、23日、30日

2005年9月20日

2006年7月22日

2007年7月7日

2008年7月26日

2009年7月18日、25日

2009年9月24日

講演会

2005年3月29日 ニール・マクリン「オリゲネスとその解釈者たち」

2008年4月11日 デイヴィド・ロラソン「ダラム司教座聖堂：北部イングランドの聖職者集団とノルマン征服」

2008年4月12日 デイヴィド・ロラソン「初期中世の国王宮廷：権力の表象と実態」

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

ヨーロッパ史研究室は、全国学会「西洋史研究会」の主催校として西洋史の専門研究雑誌『西洋史研究』新輯号の年一回の刊行と学会開催（仙台と東京）を軸に研究活動を推進してきた。

研究雑誌『西洋史研究』の紹介文のジャンルでは、博士前期課程1年次が海外の研究書の紹介文を継続的に執筆掲載してきた。また学会シンポジウムの討論部分の録音テープを活字にする作業を大学院学生が率先しておこなうことで、学問的討論の仕方を学ぶ機会としてきた。

日常的な研究・教育活動の場として、7月に修士論文執筆予定者が研究報告を行う大学院研究例会を毎年開催、また博士学位論文執筆者には学位論文予備審査会を開催し、大学院学生と教員スタッフ全員がこれに参加してきた。予備審査会は過去5年間に3回開催され、うち3名に学位が授与されている。さらに大学院博士前期課程進学者は、『西洋史研究』への紹介文の執筆だけでなく、毎年10月初旬開催の東北史学会西洋史部会で自由論題報告を行ってきた。

大学院ならびに学部学生の教育のためには、集中講義講師の招聘が継続的に行われてきたほか、研究室予算を有効に使うため内外の研究者の講演会なども開催されてきた。過去5年間での学位取得者は従来どおりだが、学術振興会特別研究員への採用件数、研究機関への就職状況については、このところ停滞ぎみである。

III 教員の研究活動（2005～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

松本宣郎「2005年度献堂記念公開講演会「古代地中海からローマ帝国の都市遺跡と初期キリスト教のイメージ」」，東北大学基督教青年会『会報』第41号，pp.7-28，2005.

松本宣郎「キリスト教と歴史学—初期キリスト教史研究の立場から—」，東京神学大学総合研究所『紀要』第9号，pp.81-96，2006.

松本宣郎「迫害原因論再考」，『西洋史研究』新輯第35号，p.151-160，2006

- 松本宣郎『イタリア古代史』2006年度科学研究費研究成果報告書, 84pp., 2007
- 松本宣郎「ローマとイタリアの初期キリスト教」平成16-18年度科学研究費特定領域研究A-02「カンパニア地方の都市とヴィッラ集落をめぐる社会史的研究(代表本村凌二)中間報告書, pp.22-33, 2007.
- 松本宣郎「ローマ市の初期キリスト教」(阪本浩・小野善彦・鶴島博和編『ソシアビリテの歴史的諸相』南窓社, pp.97-115, 2008.
- 松本宣郎「ローマ帝国のキリスト教—哲学者とキリスト教徒—」(『東北学院大学キリスト教文化研究所紀要』26, pp.1-29, 2008.
- 佐藤勝則「19世紀末オーストリアにおける都市建設と不動産抵当証券—ウィーン取引所史を手がかりに」『文化』第68号3・4号, pp.37-56, 2005.
- 佐藤勝則「近現代ヨーロッパにおける連邦制の世界史的位置—問題提起ハプスブルク帝国史の視点から—」『ヨーロッパ文化史研究』第6号, pp.129-142, 2005.
- 佐藤勝則「古いヨーロッパのアイデンティティー—オーストリア史の歴史的射程から—」『ヨーロッパ研究』第5号, pp.1-40, 2005.
- 佐藤勝則「ヨーロッパにおける宗教と寛容—カトリック文化圏の信仰・造形資料を手がかりに」『東北学院大学オープン・リサーチ・センター研究プロジェクト報告書』II, pp.205-230, 2009.
- 佐藤勝則「ハプスブルク帝国統治と歴史意識—ウィーンの宝物・秘蔵造形資料を手がかりに」『東北学院大学オープン・リサーチ・センター研究プロジェクト報告書』II, pp.450-460, 2009.
- 小野善彦「宗教改革とカトリック社会」、『歴史』第104輯, pp.1-31, 2005.
- 小野善彦「宗派形成初期バイエルンの教会巡察(1558—60年)」、永田諒一編『近世ドイツ語圏史の諸問題と研究の現状』(科研費研究成果報告書), pp.103-123, 2006.
- 小野善彦「宗派形成初期南ドイツの都市教会と農村教区」、東北学院大学オープンリサーチセンター『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容』, pp.289-300, 2009.
- 有光秀行『11～13世紀「アイリッシュ海世界」におけるネイションと国家』, 平成15～16年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告, 32p., 2004.
- Hideyuki ARIMITSU, 'Migration and assimilation seen from the 'nation address' in post-1066 Britain', *Migration and Identity in British History*, (eds) D. Bates and K. Kondo, Tokyo, pp. 7-13, 2006.
- 有光秀行「中世マン島史をめぐるいくつかの問題」, 直江眞一編『イギリス中近

世史資料の総合的研究』（科学研究費補助金研究成果報告書）,pp.
27-31, 2007.

有光秀行『中世イングランド北部周縁におけるネイションと社会』, 平成 17～18
年度科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告, 40p., 2007.

有光秀行「島のソシアビリテ」, 阪本浩・鶴島博和・小野善彦編『ソシアビリテ
の歴史的諸相』, 南窓社, pp.135-148, 2008

1- 2 著書・編著

松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』日本キリスト教団出版局, 286p.,
2006.

松本宣郎他編『文献解説・ヨーロッパの成立と発展』南窓社, 270pp., 2007.

松本宣郎編著『ヨーロッパ古代史論集』東北大学大学院文学研究科ヨーロッパ史
研究室, 135p., 2008.

松本宣郎編『西洋古代史の諸問題－西洋史研究会共通論題 1977 年～2005 年』東北
大学・西洋史研究会, 479p., 2008.

佐藤勝則『比較連邦制史の研究－調査と基礎資料－』（編著）, 共同印刷, 221p.,
2005.

佐藤勝則『比較連邦制史の研究－科学研究費研究成果報告書－』（編著）, 共同
印刷, 2007.

佐藤勝則『南チロルの旅』, 共同印刷, 2007.

佐藤勝則『誓約同盟スイス紀行』, 共同印刷, 2007.

佐藤勝則『中欧多民族帝国の歴史と精神』, 共同印刷, 2008.

佐藤勝則『中欧のミューズの女神』, 共同印刷, 2008.

佐藤勝則編著『比較連邦制史研究』, 多賀出版, 2009.

小野善彦他編著『ソシアビリテの歴史的諸相』, 南窓社, 2008.

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

松本宣郎「G.Edwards & G.Woolf, eds., Rome the Cosmopolis, Cambridge U.P.2003.」,
『西洋古典学研究』第 53 号, pp.155-158. 2005.

松本宣郎「殉教とキリスト教史－研究者の原点。書評：佐藤吉昭著『キリスト教
における殉教研究』を読んで」, 『創文』第 476 号, pp.11-14. 2005.

松本宣郎「ヴァチカンの時代」「ペテロ」『週刊シルクロード 37 ヴァチカン』週
刊朝日百科, 朝日新聞社, 2006

- 松本宣郎（井上文則・田中創）A.K.Bowman et al. eds., *The Cambridge Ancient History*, second edition, Vol.XII,Cmbridge U.P.2005. 『西洋古典学研究』第 55 号, pp.154-158, 2007
- 松本宣郎「弓削先生の思い出」『かいほう』91（古代世界研究会）, 2007
- 松本宣郎「学問とは孤独な労働である—吉岡教授語録—」（研究室の金言・名言ヨーロッパ史研究室から）『考えるということ』東北大学文学部ブックレット Vol.1,2007-3.
- 有光秀行（朝治啓三と共訳）アンソニー・ポラード「卑俗な話：初期のロビン・フッド物語」, 『歴史』104, pp. 108-122, 2005.
- 有光秀行「叙述史料」, 高山博/池上俊一編『西洋中世学入門』, 東京大学出版会, pp. 255-274, 2005.
- 有光秀行「中世イングランドの伝説と歴史学——ロビン・フッドの場合」, 『歴史と地理』no. 599, pp. 41-44, 2006.
- 有光秀行「第 2 部第 3 章節 3 節 3・ブリテン諸島」ほか中世ブリテン諸島関係の概説と文献紹介、松本宣郎ほか編『文献解説・ヨーロッパの成立と発展』, 南窓社, 2007.
- 有光秀行「神託」ほか、『歴史学事典 14・ものとわざ』, 弘文堂,2007.
- 有光秀行「中世マン島史をめぐるいくつかの問題」『イギリス中・近世史資料の総合的研究』平成 15～18 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究代表者・直江真一）研究成果報告書, 2007.
- 有光秀行「2006 年の歴史学界・回顧と展望・ヨーロッパ（中世—イギリス）」『史学雑誌』116-5, 2007.
- 有光秀行「ウェイルズ中世史料にみるネイション呼称、およびウェイルズ教会史の概略」『中世ブリティッシュ・ヒストリーの射程と可能性』, 平成 16～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B), 研究代表者・鶴島博和）研究成果報告書, 2008.
- 有光秀行「翻訳 ブローナ・ニー・コネル著, 革新, 論争と法学——『ハウエルの法 Cyfraith Hywel』と中世ウェールズ」『関大西洋史論叢』第 11 号, 2008.
- 有光秀行「シンポジウム『リテラシー研究の最前線—西欧中世史から—』についてのコメント」『西欧中世文書の史料論的研究』平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究(B),研究代表者・岡崎敦）研究成果報告書, 2009.
- 有光秀行「翻訳 デイヴィド・ロラソン著, 初期中世における王宮—権力の表象と実態—」『歴史』第 113 輯, 2009.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

Masanori SATO, Der österreichische Botaniker Hans Molisch in Sendai, 2009年7月4日
Masanori SATO, Dichter SAITO Mokichi und Demokrat YOSHINO Sakuzo in Wien,
2009年7月5日

Hideyuki ARIMITSU, 'Nation Addresses in the English Episcopal Acta', International
Medieval Congress (University of Leeds), 2005年7月13日

Hideyuki ARIMITSU, 'Migration and assimilation seen from the 'nation address' in post-1066
Britain', 5th Anglo-Japanese Conference of Historians (Institute of Historical Research,
London), 2006年9月27日

Hideyuki ARIMITSU, 'Liebermann in Tokyo', Early English Law Conference, Institute of
Historical research, London, 2008年7月16日

Hideyuki ARIMITSU, Comment on Section One, The Third Japanese-Corean Conference
of British History, Chonnam National University, Gwangju, South Korea, 2008年11
月13日

(2) 国内学会

松本宣郎「ローマ市の初期キリスト教」, 2005年度日本基督教学会東北支部学術
大会, 盛岡大学, 2005年6月18日

松本宣郎「迫害原因論再考」, 2005年度西洋史研究会共通論題「ローマ帝政期の
キリスト教」論点開示, 青山学院大学, 2005年11月20日

松本宣郎 講演「キリスト教と歴史学—初期キリスト教史研究の立場から—」,
東京神学大学, 2005年12月6日

松本宣郎「初期キリスト教の周縁部」歴史学研究会大会合同部会「生成される宗
教的《境界》」パネリスト, 東京大学教養学部, 2007年6月3日

松本宣郎「初期キリスト教徒迫害史と哲学者たち」東北哲学会2007年度大会公開
講演, 東北大学大学院文学研究科, 2007年10月21日

松本宣郎「ローマ帝国におけるキリスト教徒」東北学院大学キリスト教文化研究
所公開講演, 2007年11月29日

佐藤勝則「ハプスブルク帝国史への道」, 2006年度東北史学会大会講演, 弘前大
学, 2006年10月8日

有光秀行「ウェールズのネイションとネイション・アドレス論の現状と展望」,

2007 年度日本西洋史学会・ミニシンポジウム「中世ブリテンにおけるネイションの諸相」,新潟大学,2007 年 6 月 17 日

日浦渉「19 世紀後半から 20 世紀初頭のアイランド自治問題と連邦構想—イギリス=アイランド間の財政関係の分析を中心に—」,社会経済史学会全国大会,関西大学, 2006 年 9 月 14 日

(3) 研究会

有光秀行「中世ブリテン諸島の史料とネイション」、古代学協会東北支部大会・研究会、2006 年 3 月 18 日

有光秀行「島のソシアビリテ」、西欧中世史研究会、沖縄、2007 年 8 月 29 日、および中世ブリティッシュヒストリー研究会、北海学園大学、2007 年 9 月 4 日

有光秀行「*Pastoral Care before the Parish* ch.3 の検討」、中世ブリティッシュヒストリー研究会、大阪大学、2008 年 9 月 17 日

有光秀行「Liebermann in Tokyo」、イギリス中世史研究会、早稲田大学、2009 年 6 月 15 日

2 教員の受賞歴 (2005~2009 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2005~2009 年度)

(1) 科学研究費補助金

2004~2009 年度 科学研究費補助金特定領域研究 松本宣郎 (研究分担者) 「古代カンパニア地方の都市とヴィッラ集落をめぐる社会史的研究」 (代表者: 本村凌二東京大学大学院総合文化研究科教授) 10,000 千円 (17 年度)

2006~2007 年度 科学研究費補助金: 基盤研究 (C) 松本宣郎 (研究代表者) 「古代ローマ市における初期キリスト教の地誌的・政治史的研究」 3,200 千円 (2 年間総額)

2004~2006 年度 科学研究費補助金: 基盤研究 A 佐藤勝則 (研究代表者) 「近現代欧米における連邦制的地域統合に関する比較社会構造史的研究」 32,890 千円 (総額)

2006~2007 年度 科学研究費補助金: 萌芽研究 佐藤勝則 (研究代表者) 「ヨーロッパ・アルプスにおける空間秩序意識の形成に関する地域総合研究」

2009 年度 日本学術振興会学術図書出版助成金 佐藤勝則 1,500 千円

- 2002～2005 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B)(2) 小野善彦（研究分担者）「信仰派対立期ドイツに関する総合的研究」（代表者：永田諒一岡山大学文学部教授）
- 2003～2005 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B) 有光秀行（研究分担者）「イギリス中近世史資料の総合的研究」（研究代表者・直江眞一）
- 2004～2007 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B) 有光秀行（研究分担者）「中世ブリティッシュ・ヒストリーの可能性と射程」（研究代表者・鶴島博和）
- 2005～2006 年度 科学研究費補助金：基盤研究(C) 有光秀行（研究代表者）「中世イングランド北部周縁におけるネイションと社会」、1,800 千円（2 年総額）
- 2007～2008 年度 科学研究費補助金：基盤研究(C) 有光秀行（研究代表者）「『ネイション・アドレス』論の最終構築」、3,640 千円（2 年総額）
- 2008～2011 年度 科学研究費補助金：基盤研究(B) 有光秀行（連携研究者）「西欧中世文書の史料論的研究」（研究分担者・岡崎敦）

(2) その他

- 2006 年度 東北大学大学院文学研究科長裁量経費 松本宣郎（研究代表者）「〈東北大学歴史資源アーカイヴ〉の構築に向けて」、800 千円

V 教員による社会貢献（2005～2009 年度）

松本宣郎

講演：

「古代地中海世界からのメッセージーギリシャ・ローマの都市国家からー」
有備館講座ー歴史／東北大学大学院文学研究科・市民のための公開セミナー。2005 年 3 月 26 日

「古代地中海世界からーローマ帝国の都市遺跡と初期キリスト教のイメージー」東北大学基督教青年会溪水寮献堂記念講演会 2005 年 7 月 29 日

市民講座：

「ローマの地中海支配の過程」仙台市高森市民センター講座。2005 年 5 月 26 日

「初期キリスト教史の群像」 仙台 YWCA キリスト教短期講座。2005 年 9 月 7, 14, 21, 28 日

「キリスト教徒が生きたローマ帝国」西洋史研究会公開講演会。2005 年 9 月 24 日

仙台市博物館「ポンペイの輝き」展記念講演 2006年8月24日

「ポンペイ最後の日ーよみがえった古代ローマ帝国の都市ー」「古代地中海世界の社会史」NHK文化センター仙台総支社（2003年度より継続、毎月2回

「古代のキリスト教徒たち」 仙台YWCAキリスト教短期講座。2007年1月25日，2月1,8,15日

研修会講師：

「私の信仰と学問」東北学院中学高等学校教員研修会，2007年7月30日

佐藤勝則

仙台日本オーストリア協会理事

宮城ハンガリー友好協会理事

河北TBCカルチャーセンター講師

「ハプスブルクの精華ーウィーン美術史美術館の全貌」宮城県美術館，2008年12月

小野善彦

「16世紀中葉ドイツの教会巡察記録」，公開シンポジウム『歴史資源としての史料分析の現在（第2回）』，2007年3月29日

東北大学文学部オープンキャンパス公開講義，2008年7月31日

東北学院大学公開講演会『新しい世界の始まりと宗教改革』，2008年12月6日

有光秀行

泉館山高等学校特別講座「大学集中出張講義」，2005年4月22日

有備館講座「歴史」第3回講師、2005年6月18日

東北大学文学部オープンキャンパス公開講義，2005年7月28日

仙台二高「一日大学」，2005年11月24日

NHK文化センター（仙台）講師、2008年

東北大学文学部オープンキャンパス公開講義，2009年7月31日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

松本宣郎

大学基準協会基準委員会委員（平成15～17年度）

日本学術振興会審査委員（平成16～17年度、19年度）

日本西洋古典学会委員・編集委員・書評委員(継続)

日本基督教学会理事(同上)
史学会評議員 (同上)
西洋史研究会代表理事 (同上)
宮城学院評議員 (平成 15 年度から)
尚綱学院評議員 (平成 16 年度から)

佐藤勝則

政治経済学・経済史学会理事 (旧土地制度史学会)
社会経済史学会評議員
西洋史研究会代表理事
東北史学会副会長

小野善彦

西洋史研究会理事
東北史学会評議員

有光秀行

西洋史研究会理事
東北史学会評議員
東北史学会理事

VII 教員の教育活動 (2009 年度)

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

佐藤勝則教授

1 学期	欧米近現代史研究演習 I	欧米近現代史研究方法論
2 学期	欧米近現代史研究演習 II	欧米近現代史研究方法論
2 学期	欧米近現代史特論 I	比較連邦史研究—応用—
1 学期	欧米近現代史研究演習 III	比較連邦史研究—応用—
2 学期	欧米近現代史研究演習 IV	比較連邦史研究—応用—
通年	課題研究	

小野善彦教授

1 学期	西洋中近世史研究演習 V	中世ドイツの帝国と領邦
------	--------------	-------------

- 1 学期 西洋中近世史研究演習Ⅶ 西欧近世の宗教・社会・国家
 2 学期 西洋中近世史研究演習Ⅵ 中世ドイツの帝国と領邦
 2 学期 西洋中近世史研究演習Ⅷ 西欧近世の宗教・社会・国家
 通年 課題研究

有光秀行准教授

- 2 学期 西洋中近世史特論 ヨーロッパ中世史料論
 2 学期 西洋中近世史研究演習Ⅱ 中世ヨーロッパ史研究
 2 学期 西洋中近世史研究演習Ⅲ ヨーロッパ中世史料研究
 2 学期 西洋中近世史研究演習Ⅳ ヨーロッパ中世史史料研究
 通年 課題研究

2 学部授業担当

佐藤勝則教授

- 第3セメスター ヨーロッパ史基礎講読 近現代史独語文献読解
 第4セメスター ヨーロッパ史基礎講読 近現代史独語文献読解
 第5セメスター ヨーロッパ史各論 比較連邦史研究—基礎—
 第5セメスター ヨーロッパ史演習 近現代史英語文献演習
 第6セメスター ヨーロッパ史演習 近現代史英語文献演習

小野善彦教授

- 第3セメスター ヨーロッパ史基礎講読 英語文献講読
 第4セメスター ヨーロッパ史基礎講読 英語文献講読
 第3セメスター ヨーロッパ史概論 都市と西欧世界
 第4セメスター ヨーロッパ史概論 都市と西欧世界
 第5セメスター ヨーロッパ史各論 西欧中世社会の構造と展開
 第5セメスター ヨーロッパ史演習 西欧近世の宗教・社会・国家
 第6セメスター ヨーロッパ史演習 西欧近世の宗教・社会・国家

有光秀行准教授

- 第4セメスター ヨーロッパ史基礎講読 フランス語文献精読
 第6セメスター ヨーロッパ史演習 中世ヨーロッパ史研究
 第6セメスター ヨーロッパ史各論 中世ヨーロッパと一次史料

3 共通科目・全学科目授業担当

全学教育科目

佐藤勝則教授

第4 Semester 人文社会科学総合 史学概論

(2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

松本宣郎教授

東京大学文学部・人文社会系研究科 2005年12月12～16日

佐藤勝則教授

放送大学(宮城学習センター)「ヨーロッパ史像の再構成」, 2005年.

名古屋大学大学院経済学研究科「西洋経済史研究の方法的可能性」, 2006年.

放送大学(宮城学習センター)「ヨーロッパ統合の歴史的源流」, 2007年.

岩手大学人文社会科学部「統合ヨーロッパとハプスブルク帝国」, 2007年.

宮城教育大学教育学部「外国史概論」2008年.

宮城教育大学教育学部「史学概論」2008年.

東北学院大学大学院文学研究科「ヨーロッパ文化史概論」2009年.

有光秀行准教授

宮城学院女子大学非常勤講師 2004年4月から2006年3月まで